

第117回謳粹会の記

日時 平成20年5月10日(土)午後1時

場所 奥高尾「うかい鳥山」

今回の謳粹会の記は、企画を謳粹会幹事会で決め仮予約をした後の4月下旬会長代行の露木修氏が肺炎で入院してしまったため、事務局でまとめました。

昨年の奥多摩ハイキングが好評だったため、若葉薫る5月は高尾山とその近く奥高尾にある「うかい鳥山」に決めました。越中五箇山の合掌造りの建物群と野趣溢れる料理で有名なため30名の仮予約を入れてありましたが、実際は、いろいろ都合があり17名の参加に留まりました。

前夜の天気予報で午前中は曇りということだったので、事務局から、翌朝雨が降ってなければ高尾山登山を実行しましょう、とメールを送っておきましたが、あいにく当日は朝から雨でした。しかし、その雨にも負けずに登山された方が5名おられました。(その模様は別記)

午後1時からの謳粹会は、予定の全員が参加しました。つくば市からは前回に引き続き相澤興二氏が、神立からは久しぶりに中島良平氏(何れも41年卒)が遠路はるばる参加され、今年傘寿を迎えられた大塚保氏、松尾一郎氏の長老もお元気な姿で参加されました。

時節柄、雨天にもかかわらず、高尾山口駅からの送迎用の大型バスは満員、別に大型観光バスや会社のバスなどで来ている客も多く、合掌作りの受付・待合室からちょっと登ったところにある離れに案内され、席に付出し、お通しが出され、ビールで乾杯したのは30分遅れでした。

大きな加茂茄子の田楽でとろりとした味噌の味に舌鼓を打っていると、次々と野趣溢れる食材が運ばれ、メインの特選鶏は、教えられるように皮の方から炭火で焼くと、ふわっと柔らかい食感で、秘伝のたれにつけたその味は、確かにお店のご自慢のとおりでした。

麦とろご飯で締めて会席はお披露となりましたが、いろとりどりの料理は、竹酒と3面の窓から近くに眺められる奥高尾の新緑とマッチして、皆さん充分堪能しておられたようです。

席上、大塚先輩が、ハーモニカを取り出されて、土浦一高校歌や同期の桜、懐かしの唱歌を、優しい旋律で演奏されたのには、全席水を打ったように聞き入って、アンコールの声も飛び出すほどでした。(謳粹会事務局大野記)

(当日の参加者)

(昭20中45)大塚保・松尾一郎 (昭27高)坪井洋 (昭29高)池田三男

(昭31高)大野金一・菊地清・酒井隆二・高野久弘・中村信秀・武藤明・山田晴康

(昭37高)北川正之・矢口照雄 (昭41高)相澤興二・中島良平・長戸琴・安井恵子

謳粹会のハイキング(08-5-10)

5月10日(土)は、朝6時半頃、屋外に出てみると空は暗く雨が降っていました。当たらない天気予報。しかし、高尾山は行ってみたいと思っていましたので、‘高尾山口’駅

へ10時に着きました。集合時刻10時31分までに来られたのは、松尾一郎氏、酒井隆二氏、安井恵子さん、中島良平氏と私の5名でした。次の電車到着、10時40分過ぎまで待ちましたが、来る人はありません。雨にも負けず、寒さにも負けず、ケーブルカーに乗り終点‘高尾山駅’に到着。ケーブルカーには50名以上乗車していましたが、半数は外国人旅行客でした。

松尾氏には、高尾山に特別な「思い」がありました。松尾氏は、陸軍士官学校に入学、終戦のため土浦中学校を卒業されております。5年前に、陸軍士官学校の同期生が戦友の慰霊のために観音様を建立したのです。それは、薬王院の手前広場を左に登った所にあります。松尾氏はここにお参りするために来たのでした。

松尾氏と一緒に安井さん、中島氏の3名は観音様のお参りに、酒井氏は薬王院の近くを散策、私は薬王院本堂から奥の院まで雨の階段を登りながらたどりつきました。帰りは階段が滑り易く、充分用心して戻りました。小雨の時に見渡すと、周囲の新緑が生き生きとしており、道端には白い「しゃが」の花が美しい。明日への元気が出てきました。下山予定の12時15分のケーブルカーで5人は一緒になり、目的地の「うかい鳥山」へバスで到着しました。(高野 久弘 記)